



第69回

倉吉市美術展覧会

令和6年

会期 前期：6月9日(日)～6月18日(火)

洋画・版画・彫刻・写真

後期：6月23日(日)～7月2日(火)

日本画・工芸・書道・デザイン

開館時間：平日・日曜日：午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで 会期中無休)

金・土曜日：午前9時～午後7時

(入館は午後6時30分まで 会期中無休)

会場 倉吉博物館

主催 倉吉市教育委員会



あ い さ つ

倉吉市ならびに中部地区の美術活動の発展と振興を図ることを目的として開催してきました倉吉市美術展覧会も回を重ね、第69回となりました。鳥取県内でも歴史ある本美術展が第69回を迎えられたのは、創作に励まれご出品いただいた皆様や、開催に向け運営に携わっていただいた方々のご尽力の賜物と深く感謝する次第です。

今年も高校生・短大生をはじめ、幅広い年齢層の方々からご出品いただきました。いずれも日々の努力をうかがうことができる作品ばかりです。多くの皆様の本美術展をご覧いただき、地域における創作活動が益々活発となることを祈念いたします。

今後益々、本美術展が倉吉市をはじめ中部地区の皆様にも親しまれる展覧会となるよう努力してまいります。今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

倉吉市教育委員会 教育長 中 田 寛

審査講評

日本画部門

半年間という短い間に描き上げられ、日々の努力でここに出品されました皆様の作品はどれを拝見しても素晴らしいと感じました。彩色や墨と色を調和させて完成した作品は見て頂く方々に感動を持って頂けると信じています。60号から10号までの作品の中では、小さい作品でも審査員の目を惹きつける立派なものがありましたし、無鑑査作家の作品も甲乙つけがたく、見とれてしまうほど優秀な作品に仕上がっています。これからも日本画部門にもっと新しい作品を出して頂けたらとの思いを持ちながら審査したところです。

総評者：中川 端月

洋画部門

応募点数が若干減少し残念であるが、本年度も油彩・水彩・アクリル・ペン等多彩な描画材料を用い、風景・静物・人物等の具象的表現や抽象的表現等モチーフも表現形態も多様で、バラエティーに富む個性的な作品群であった。

ただ、全体的に小振りだったという印象が残る。大作は、画面が広がることで画面構成の工夫や制作に時間を要し大変ではあるが、迫力とアピール力が増し観る者を惹きつけると思う。特に、無鑑査作家には意欲的な大作の出品を一層期待する。

特賞・市展賞等の受賞作品は、主題がしっかりし視点や構図が工夫され、モチーフと対峙し色調を整えながら丹念に描き上げられ、今後が楽しみである。

総評者：門脇 博

版画部門

近年の倉吉版画は、市展出品に衰退の道筋を作ってしまったのかも知れない。版画人口は、倉吉市区だけでもかなりの作家が在住しているのに。県展には出品するが市展には参加しない作家たちの存在もある。趣味の範疇で活動している方々のなかに、優れた作家が育っているのに誘い込めない運営委員の無策が悔やまれるのだ。

今回の出品版画は、殆どが無鑑査作家であり高いレベルを維持している。最長老の綾女知廣氏の「伯耆一宮の大スギ」は圧巻である。枝の重なりを生き物のように彫る技は流石と言う他ない見事な作品になっている。無鑑査で文句なく特賞になった中原玉美さんの「郷愁」は、見る者を一瞬にして青春時代にタイムスリップさせてしまう物語がある。市展賞の石脇正江氏の「静寂」は、大木のふもとで連なって雪に埋もれた小さな五輪の塔が、人生の悲哀を描いて美しい。

総評者：計羽 孝之

彫刻部門

彫刻部門の出品数が3点と少なく、寂しい展示となってしまった。

無鑑査の山内氏の作品「風」は、銅管と金属板、木と自然石の組み合わせで、風が踊りながら吹き流れている情景を見事に表現していて、特賞に値する秀作である。

審査員の「潮風につつまれて」はグラウンド・ゴルフの発祥地の記念碑の石膏原型である。祖父と孫がプレーを楽しんでいる場面を二人の組み合わせで構成している。

総評者：朝倉 和博

工芸部門

今回も例年に並ぶ出品数があり、力作が揃っているなど第100回市展の作品も陶芸、木工、竹、染色に織物と幅広く、見応えがあり、技術の完成度が高い作品、独自の表現をしている作品が賞に値する作品が数多くあり、デザインの方法であったり、見せ方の部分で個性が光った作品も数多くあり、と試みながら制作されていて、その成果を発揮されているなど、

日頃の充実した制作活動の発表の場として来年の出品も期待しています。

書道部門

今回、書道部門は昨年度より出品数が11点増え、とても好評です。特賞1点、市展賞4点、奨励賞4点を決めました。多岐にわたるジャンルがあり、判断するのも悩みました。特に受賞作品は優れ、潤澤な線質、余白の美しさ、流れもよく、高いテクニックを駆使して完成された、魅力的な作品が多くありました。

写真部門

今回も完成度の高いユニークな力作を数多く出品していただき、お祭り、イベントスナップと多彩で型にとらわれない斬新な作品が数多くありました。受賞作品はいずれも作者の自由な発想でとらえられた、個性あふれる作品でした。さまざまな写真に出会い、見応えある審査ができました。ますます楽しみとなりました。

デザイン部門

出品数が少なかったことが残念だったが、技術面で高校生レベルの技術の上達を感じた。テーマがすべて違うので、見る人にも個性が伝わると思う。市展賞の人口減をテーマに扱ったものも数多くあり、選ばれた。奨励賞は、表現力と内容のいずれかが向上すればいいと思うものを選出した。アナログの作品は、いずれもイラストや文字を入れる技術を身につけ、メッセージ性を高めてほしい。

【ご案内】

*倉吉市美術展覧会には、中部地区（倉吉市外）に在住または勤務している方のみが参加いただけます。また、中部地区出身で現在他地区にお住まいの方も参加いただけます。

*無鑑査資格の取得について…5年間で3回以上市展賞を受賞し、審査員から推薦された方によって運営委員会に推薦されます。